

第 8 回評価委員会の主な意見

区 分	意 見
前 文	「大学の運営基盤の整備の充実を達成する」ではなく、「大学の運営基盤を整備する」の方が日本語としての的確ではないか。
	「名古屋市の行政課題の解決」は良い提案であり、計画の中で具体化する必要がある。
	「名古屋市の行政課題の解決」については、短期的に着実に解決すべき問題と長期的によく調整して取組むことが必要なものに分かれる。法人は行政課題の解決機関でなく提言機関である。市の統括部門が関与し、法人と調整することが必要である。
	前文の 2) は格調高く書かれているが、社会貢献に関する目標・計画は記載が平凡である。
	行政との協働については、法人が自ら計画を立て、点検評価を行うべき。大学が課題を自主的・創造的に判断し、提起することも必要である。
教 育	学部・学科の再編等、予算が必要なために中期目標を一般的な表現にすることには疑問がある。予算事項と中期目標に掲げる事項とは分けて考えるべき。
	名市大の教養教育や語学教育を受ければ、社会が必要とする教養や語学を身につけることができることを打ち出すべき。
	英語教育・教養教育・就職率など、名市大に入学する学生が、確信を持って入学できるようにするにはどうすべきか考えないといけない。
国 際	これまで評価委員会からはアジアとの連携の強化について指摘をし、法人からは特定の地域に限定しないとの回答が続いてきたが、整理すれば矛盾する考えではないと思う。複合して全体としての国際交流の充実といったかたちで進めることはできないか。
	受け入れた留学生の卒業後の実態を把握し、コネクションを継続させる必要がある。
附属病院	病院長の権限強化の中身を具体的に明らかにする必要がある。